



同友しずおか 2



私の逸品

未来農業に役立つ情報発信拠点

(有)アグリ開発

詳細はWEBで!

(榛原支部)

静岡同友会

検索

特集

同友会型企业づくりの実践！ ～よい会社・よい経営者・よい経営環境を目指す～

会員訪問記

下田 啓澄氏 (有)渋谷木工所・御殿場支部
望月 渡氏 モチツキオートボディー・静岡支部

シリーズ

委員会・部会通信 稲原 研氏 松屋電気商会・例会企画委員会委員長

その他 主な内容

イントロセミナー in沼津・富士宮、支部だより、静岡大学連携講座、食と農・地球環境研究会合同企業訪問、新入会員・名義変更紹介、友達の輪、青年部 朝まで討論会in御殿場、追悼文

平成28年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

同友会型企业づくりの実践！

～よい会社・よい経営者・よい経営環境を目指す～

静岡同友会は1974年の設立から現在まで多くの経営者が、自社経営と地域社会の発展をめざしてきました。会勢も1050名を超え、会内外からの期待はますます高くなっています。本号の特集は同友会の根底にある同友会理念を、自身の血肉とし、会と共に歩み、経営に邁進される3名の先輩会員を紹介します。東部から竹内昭八氏（㈱タケウチ・富士宮支部）、中部から友廣修氏（㈱静岡インシュアランスグループ・静岡支部）、西部から山本秀樹氏（㈱山本加工所・浜松支部）に語って頂きました。新会員、青年経営者の皆様にとって、会活動への関わりと自社経営を不離一体として捉えて頂きたいと思えます。

「人材こそ我が社の財産」 従業員と積極的に向かい合う経営

語り：竹内 昭八氏

（㈱タケウチ 代表取締役会長・富士宮支部）

事業：日用品雑貨卸売業

入会：1977年3月

㈱タケウチでは、生活用品等の卸売業を80年以上に渡り営んでいます。グローバル化の影響で地方も様変わりし、小売業や卸売業も淘汰されており、全盛期県内で20社以上あった卸売が今では2～3社。全国でも1600社超から380社前後にまで激減する中、なんとか変化に対応し今日に至ります。

中小企業が苦難にさらされ、格差に憤りをも感じる中で、同友会での学びを深めました。また、中小企業は経済の屋台骨であるという「ヨーロッパ小企業憲章」を知り、衝撃を受け、徹底的に研究と実践を継続してきました。

企業はどう生きて行くのか？という1つの基準が同友会3つの目的。やめる選択肢だってある。でも続けたい、負けないという気概がある以上「存続する。やめない。」という決意で取り組んでいる。存続の為にたどりついた道は、より地域に密着しニーズを探り当てることでした。雇用を確保し、変化しながらも継続できる環境づくり、人づくりが必要になってきます。

タケウチでは以前から、経理などの社内情報は幹部社員にもオープンにし、ガラス張りの経営を行っています。危機感も共有しているので、社員も方向転換にも柔軟に対応していきます。苦しかったら、正直にそれをオープンにする事で社員



竹内 昭八氏

との信頼関係が生まれると思うのです。

拡張のため本社を移転・建設する際には、立地や日照の調整など、住民の方々と丁寧に何度も話し合いました。今でもお付き合いを欠かしません。「タケウチさんなら安心」と、近隣から勤める社員・パートさんも非常に多くいます。

ただ拡大すればいいというものではなく、従業員が笑顔で働ける場所を創る事が大事で、昨年新たに設立した事業部も社員と共に構築してきました。タケウチが持つもの。それは「人材」です。人を大切にする経営。それが、3つの目的の真髄にある「人間尊重」の経営として、未来に橋渡しできると思うのです。

田邊 元裕氏（㈱カボスメディアワークス・富士宮支部）

世代・業種を越えた交流から 経営者のあり方を学ぶ

語り：友廣 修氏

（㈱静岡インシュアランスグループ 業務執行役員・静岡支部）

事業：損害保険(自動車保険・火災保険・傷害保険・賠償保険)

生命保険(定期保険・終身保険・養老保険・医療保険)

入会：1978年12月

1968年に先代が創業した保険代理店に就職し、その後に事業承継。業界に携わり50年目になります。常に「人の役に立つ」ということを考え、経営と向き合ってきました。

入社当初は、保険業界への思い入れに特別なものがあつた訳ではありませんでした。しかし、同友会に入会し、様々な経営者と出会い、経営や社員に対する考え方を聞く中で、自身の経営者としてのあり方を見直し、



友廣 修氏

正していったのを覚えています。

入会当時は、30～40代と若い経営者が中心でした。まだまだ少ない経営体験のなか、報告内容も出来上がったものばかりではありませんでしたが、かえってどんな話からも何かを学ぼう、という意識が育ちました。

全国大会にも、積極的に参加しました。そこには素晴らしい経営者の方々が集まっていました。阪神淡路大震災の際、経営理念があったからこそ経営が継続できた話。従業員との会話と自社の経営理念が一貫している実践事例。全国大会の報告者は、本当にすごい方ばかりでした。

さて、同友会は主体的に参加するほど、大きな学びがあります。例えば会内の役に就くと、考えることも、まとめる対象となる人の数も増えます。これは大変ではありますが、自分の見聞を広げ、自らが育つチャンスにもなります。若い方には、ぜひ役を通じ成長してほしいです。また、世代や業種を超えて交流し、そこからお互いに学び合えるのも、同友会の特徴のひとつです。

同友会は、まじめに勉強し、その学びを自分たちに還元できる会です。また、同友会は常に、いかに人が企業を作るのかを、ぶれることなく示し続けてきました。しかしながら、時代毎に経営環境は変わります。それを鋭敏に感じ取れる経営者が、常に必要です。特に後継者は、どんどん同友会に入るべきだと思います。一方で、学びの場以外に、趣味や懇親など、様々な形で参加できる場所があります。そのような場所で、自分が何者か、何ができるのかをPRし、多くの経営者の皆さんと知り合って、自分のプラスにしてほしいと思います。

藤本 浩氏（プリントバリュー(株)・静岡支部）

同友会で考え、学び、 励まし合ったから今がある

語り：山本 秀樹氏

(有)山本加工所 代表取締役・浜松支部

事業：金属切削加工業（二輪、四輪等の部品加工、鉄、アルミの試作、小ロット生産品が中心）

入会：1990年8月

(有)山本加工所は、元々は両親が内職で金属加工を行っていましたが、周囲に独立を勧められ、父が個人事業として創業。平成になってから法人化し、その後継に事業承継をしました。同友会に入会



山本 秀樹氏

したのもその頃です。

同友会では、現場を離れて「自分はどのような仕事をやっていくか」を考え、まとめることができました。また、会員経営者の報告や大学の先生の講演などの中から「小さな工場

の生き残る方策」を考えることもできました。父の代では楽器や二輪の仕事を請け負っていたのですが、私の代からはそこに加えて治具・試作品も手掛けるようにしました。これは、少量・多品種の仕事を行うことによって時代の変化による経済・仕事の変化に対応するという、同友会での学びを実践したものです。また、数値制御（NC）で加工できる機械を導入し、特殊な仕事もできるようにしていきました。

私は同友会にいて、打たれ強くなったと感じます。景気の変動によって自社の仕事量が減り、苦勞することも多いのですが、これは同友会の仲間達も同じこと。「負けちゃいけない」と、お互いの存在が励みになったからだと思います。

さて、同友会は、多種多様な経営者の中で揉まれ、経営者として成長できる場です。そして成長するためには「一つでも多くを学ぼう」という積極的で前向きな姿勢で、会の活動や会員同士の交流に臨むことが大事です。また、会社を成長させたいならば、従業員と想いや方向性を共にすることが大切です。この会は、全ての会員の経験や会内の蓄積から、経営者として大切なことを学べる場であり、悩みや相談事、経営者としての問題・課題を共有できる場所です。だから、新しく会社を興した人はぜひ入会し、共に学んで欲しいです。

最後に、人間は社会の中で協働して生活しているものです。その中で仕事をするということは、自分の存在意義を社会に創り出す行為です。何の為に仕事をしているか？社会での自分の存在意義とは？そんなことを自分に問いかけると同時に、目の前に誰かが居ることで自分の存在に意味が生まれ、それが連鎖していくという、人と人との繋がりという意味を大事にして欲しいと思います。

真砂 隆氏（フロムネイチャー・浜松支部）

同友会イントロセミナー IN 沼津・富士宮

1月26日(木) 沼津商工会議所 参加24名

本年度支部目標160名を目指しイントロセミナーを開催しました。報告者は入会7年目の水口はるひ氏(尙みずぐち)。函南町を基盤とし葬祭業を経営。外部環境の変化で自社の経営に危機感を持ち入会。支部「経営指針を創る会」に参加し経営理念を成文化しましたが、代表者ではない事を理由に理念の発表はお蔵入り。その後社内体制が変わり益々厳しい経営環境に迫られる中、社長に直談判し経営を一任してもらいます。社員に向けて経営理念を発表。5年後のビジョンを掲げ新しい業務評価制度を導入。少しずつ変化の兆しが見え始めました。経営理念があれば会社は変わる。売上げが伸びないのは掲げた理念が悪いからである。経営を守りたいという一心でリーダーシップを発揮する水口さん。参加者の心に強く響いた報告で、ゲストの入会へ結びつくセミナーでした。

露木 正樹氏(株スタート・沼津支部)



沼津イントロセミナー



富士宮オリエンテーション

2月3日(金) 富士宮清掃(有) 参加18名

河原崎信幸氏(シンコーラミ工業(株))が、同友会三つの目的について語りました。経営指針づくりとは自社の存在意義を明確にするということ。良い経営者になるためには他の経営者に興味を持って見つめること、同時に自ら相手の懐に飛び込んで「知ってもらう」こと。そして自ら行動していくこと。良い経営環境を作る具体的な事例として、中小企業振興基本条例に関する様々な取り組み。同友会と共に歩んできた河原崎氏の含蓄に富んだお話でした。「経営者が真剣に経営について議論しているのが同友会。ここで学び、実践した事は、必ず自分の力になる」と河原崎氏は会の魅力をストレートに伝え、その場で入会宣言頂いたオブザーバーの方もいました。

支部だより

御殿場例会

自分がいなくても会社は動きますか?
～働く環境こそが社員の成長の糧となる～

1月18日(水) エピスクエア 参加57名



御殿場支部の共育部会ではどのように社員と関わるか? 過去議論が何度もされてきましたが、今回の例会では、社員の育つ土台は会社にあるのか? 経営者が

整えなければならない土台は何なのか? という提起からスタートしました。

社内の労働環境について、同友会で出来る事と出来ない事を認識し、明日から出来る事ではなく、今この場から出来る事を考えること、また、一人ひとりが例会に出席するのではなく、例会に参加していると感じられる例会になるよう運営を行いました。

最初はいつもと違うスタイルに参加者の中にも戸惑いが見られましたが、例会が進むにつれて活発な意見交換が行われました。経営者に求められる本質的な資質を議論することによって、会員一人ひとりに得るものがあった例会だと確信しています。

杉山 正英氏(有杉山正五商店・御殿場支部)

富士宮例会

地元金融機関の姿とお客様との関わり方

1月13日(金) 志ほ川バイパス店 参加39名

富士宮信用金庫理事・業務部長の篠原勇氏を講師としてお招きしました。氏は、富士宮本店長、他4支店長を歴任する「現場一筋」の信金マンで、



2016年7月まで富士宮支部の会員でもありました。

富士宮信用金庫では「地域の成長と前進を求め、みなさまと共に歩みます」の経営理念のもと、多くのお客様から支持され気軽に利用いただける信用金庫を目指し、中小企業の事業の発展をお手伝いして、地域社会の利益を優先することを常に考えています。その中で篠原氏は「過去は信用 未来は信頼」という心のキーワードを常に持ち続けてきました。「まずは、お客様の事案に全力で取り組み、その結果が次につながる。これまでの取り組みにより信用され、その積み重ねが信頼になる。この信念の下、今日までお客様と向き合い、これからも実践していきます」と、お客様と向き合う篠原氏の覚悟と気概が覗える例会でした。ま

支部だより

た、私も自社の発展だけでなく、地域社会の利益を優先した事業の発展を目指していきたいと思いました。

金子 佳正氏 (金子石材滝戸・富士宮支部)

志太例会

経営指針書で明確になった これからの課題と目標

1月19日(木)

島田市地域交流センター「歩歩路」参加27名



2015年10月に入会した柴田和哉氏(ヤマサン)が報告しました。25歳で父が勤めていた会社の下請仕事を始め、若さゆえの勢いと強引さで事業を進めていきましたが、うまくいかず廃業にいたり

ました。どん底の波乱万丈の会社員時代を経て、地元藤枝に帰り、一念発起し、再度起業しました。入会翌年に「経営指針を創る会」に参加、成文化をする過程で明確になった課題や、今後の目標について、熱く語っていただきました。

バズセッションでは、来た仕事を断らない、買ってといわず売ってと言わせる、自社のスキルを上げ、他社との差別化をはかる等、顧客に対する姿勢について活発な意見交換となりました。また、社員を雇うことへの覚悟、組織として動くことの大変さとやりがいについても議論が交わされました。他支部からも創る会の同期のメンバーが駆けつけ、活気ある例会となりました。

山田 幹也氏 (株立花ガーデン・志太支部)

中遠例会

人に教えること・伝えることの難しさ

1月19日(木) ワークピア磐田 参加13名



ソフトな物腰が印象的な報告者の竹山城次氏(竹山社会保険労務士事務所)。元は損害保険の代理業で数字を追いかけていました。その頃出会った社会保険労務士の資格をもつ同業者に触発され、一念発起して資格試験に挑み、合格を果た

しました。やはり人との出会いは大切です。その

後ほぼ一人で労務士業務を行っていましたが、最近になり同業者の先輩から事業を引き継ぐことに。しかし引き継ぐはずの従業員がみな退職、急遽知り合いから有資格者のパートを紹介してもらったものの、慣れない仕事のためミスが発生。竹山氏は従業員への業務の指導や留意点の伝達方法などを考えました。そして自らの業務を振り返り、自分だけがわかるやり方になっていたり、方針が毎回変わっていたことに気づき、業務を従業員に指示する際にチェックリストを使用することを考案。正確性が増し、書くことにより問題点が整理されることで連携不足が解消したそうです。

グループ討論では、「マニュアル化」、「繰り返し教える」、「伝達がスムーズになされるための環境づくりが大切」などの意見が印象に残りました。

鈴木 弘之氏 (税理士法人あい会計・中遠支部)

浜松例会

同友会は経営者の駆け込み寺

1月18日(水) エーグッド 参加14名



今回は前後半に分け、終始バズセッションを行いました。前半は悩みや課題について。現状に満足していないからこそ、この議論は成り立つので

あり、十人十色の課題を持っている事がわかりました。個人的には社員を抱える経営者と個人事業主の課題には大きな違いがあり、前者は社員の教育に関する事、後者は経営自体が揺るがないようにすることと感じました。後半はチャレンジしていることについて。人と違う、自分にしか出来ないオリジナリティを出すために、新しい事業・商品・事務所・社員の事を考えました。また、チャレンジには「目標を掲げて、達成するためにチャレンジをする事」と「問題・課題があってそれを解消するためにチャレンジする」という2通りがありました。同友会の会員経営者は、いつどのような状況に変化しても対応できるように課題を持ってチャレンジしていることがわかりました。今回のバズセッションを通じて、皆さんがどのような仕事をしているのか理解が深まり、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

江間 省豪氏 (江間企画・浜松支部)

静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」



第12講 1月11日(水)「障がい者だから教えてもらえた」
伏見 修氏 (株)富士山ドリームビレッジ・静岡支部

障がい者支援事業の概要や具体的な活動を、動画も交えて紹介。また、障がい者は身近にいるということや、どのように対峙したら良いか、そして、障がい者と関わることで自分はどのように変わったかを話しました。最後に、何が目標・目的か見定めて行動することの大切さと、「始めるのはいつになっても遅くはない」というメッセージを、これからの人生を築いていく学生に伝えました。

第13講 1月18日(水) 休講

第14講 1月25日(水)「第五福竜丸 ビキニ水爆被曝事件～あの頃 ぼくたちは13歳だった 私のアイデンティティ～」
杉村 征郎氏 杉村精工(株)・志太支部

ビキニ環礁水爆実験により被曝した、第五福竜丸。当時の焼津や第五福竜丸の様子、その悲惨な状況に逆境するような政府の対応と原発導入の決定、その双方を目の当たりにした15歳の杉村氏が友人と行った原水爆反対署名活動は、やがて全世界に広がっていきました。このような実体験を基に、平和に向けての行動やエネルギーシフトの必要性、平和と経済の密接な繋がりを強く学生に伝えました。



地域循環型社会を担うバイオガス発電プラントが完成

視察先：(株)ゲネシス バイオガス発電プラント

1月27日(金) 参加27名

地球環境・食と農研究会の合同企画で視察訪問を実施しました。

バイオガス発電プラントは食品等の残渣をメタン発酵させその発生したガスを利用して発電をする施設です。ゲネシスでは以前から食品リサイクルに取り組んでおり、リサイクルに不向きなものをリサイクルさせたいと言う大橋徳久氏(有)大橋商事・代表取締役)の思いからプロジェクトが始まりました。

当日はこの施設を企画したプロジェクト会社の植田社長も同席して頂き、冒頭のあいさつや視察終了後の質疑にも参加いただきました。

印象に残っているのは徹底した臭気処理です。特に臭気が出やすい前処理棟内は臭いを外に出さない仕組みが徹底されており、大橋氏の強い思いが伝わってきました。

今後の事業への取り組みや将来的な雇用についての話もありました。障がい者雇用も考えているが、まずはこの施設をしっかりと動かすために社員がプロにならなければいけないと締めくくられました。

このプラントは東海地域で最大規模で、静岡のエネルギーシフトを考えていくうえでも大変重要な施設になると感じました。



プラント設備を説明する大橋社長(一番右)

池原 智彦氏(有)池原商会・志太支部)

連載 Linkai・Bukai tsushin
委員会・部会通信
第9回

例会企画委員会

例会企画委員長2年目の稲原と申します。同友会とは、国民や地域と共に歩む中小企業を目指し、三つの目的(良い会社・良い経営者・良い経営環境)実現のために、自主・民主・連帯の精神と謙虚に学び合う姿勢で取り組む、という会であります。その「学び」の中心が各支部での月例会です。また、月例会は会員の経営体験の報告とそれを受けてのグループ討論が基本となります。今一度、その原点に立ち返って「同友会でしか出来ない月例会」作りにこだわって欲しいと思います。報告者が、同じ環境・テーマ・気持ちで報告する機会も、同じメンバー・テーマ・グループ長でグループ討議をする機会も二度とありません。茶

道の一期一会ならぬ、一期一例会という気持ちでの月例会作りも、併せてお願いしたいと思います。県例会企画委員会では、2009年に「例会運営マニュアル」を作成しました。また、支部からの要請があれば「グループ長研修」を実施する体制を整えています。

また、参加は各支部の例会企画担当者以外にも可能です。例会運営に興味のある方は、是非、県例会企画委員会まで足をお運びになって下さい。お待ちしております。



稲原 研氏
(松屋電気商会・県例会企画委員会委員長)

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで! TEL:054-253-6130

古き良き技術を通して満足のいく住み心地へ

(有)渋谷木工所

専務取締役 下田 啓澄氏 (御殿場支部)

事業内容：木製建具・アルミサッシ、リフォーム工事、
オーダーメイドの建具 (ドア・襖・障子)、
オーダー家具製作

創 業：1918年

設 立：1976年12月

社 員 数：17名

入 会：2015年4月

所 在 地：御殿場本店 御殿場市古沢175
 小山店 駿東郡小山町菅沼653-2

T E L：御殿場本店 0550-70-9177

 小山店 0550-76-4477

U R L：https://www.shibuya-mokko.com/

地域の老舗として

1918年(大正7年)に創業し2018年(平成30年)には100年を迎える老舗の渋谷木工所では、襖、障子、ドアなどの木製建具作りに特化し、地域の建設会社や工務店からの新築住宅の和室など、木を使用した建具の施工を請負っています。しかし昨今、住宅環境も変化し和室を設けた間取りが少なくなりつつあり、職人が減少。その影響で事業を継承される会社も減少傾向とのことです。その中で渋谷木工所は、信頼と高い技術力で地域に根付いています。木製の建具は、質感や肌触りといい、味と深みがあります。施工の際には日常の住み心地の満足度も高めるために、細部にまで拘っています。

歴史を感じながら次世代へ革新

リフォーム工事では、建具に手を加える際、襖紙などを剥がすと「渋谷木工所」と書かれていることもあり、先代の足跡を感じるそうです。下田氏は、素材を変えずに磨き深めることで、会社の歴史の継続とお客様との絶えることのないお付き合い、そして更なる発展に繋がると話します。特異な技術も要求されるため渋谷木工所ではできない施工を求めて遠くは長崎、四国などからも問い合わせがあります。家具などもリノベーションができにくいと思われがちですが、細かなパーツを交換し磨きなおせば新品同様になると話します。



下田 啓澄氏 (左から3番目)

事業継承に向けて

現在は3代目の渋谷一氏が2003年に2代目から代表権を引継いでいます。いずれは、専務取締役の下田氏への事業継承を考えており、次代の経営基盤を準備するうえで下田氏が2015年に入会しました。現在は経営理念部会で理念作成のため学び、来年の2月には例会で発表予定とのことです。その理念が基軸となり次のステージに向けての飛躍が期待されます。4代目の事業継承に向けて着々と歩み続けています。

取材・記事：片野 貴一郎氏 (㈱モスク・クリエイション・御殿場支部)

取材：遠藤 直樹氏 (㈱マルエ・御殿場支部)

鎌野 芳行氏 (有鎌野電機・御殿場支部)

杉山 道洋氏 (有杉山養鶏場・御殿場支部)

アットホームな社風と幅広い技術で躍進中！

モチヅキオートボディー

代表 望月 渡氏 (静岡支部)

事業内容：自動車钣金・塗装、車検・整備・修理、
新、中古車販売、自動車保険

設 立：1988年4月

社 員 数：正規5名 パート3名

入 会：2014年6月

所 在 地：静岡市清水区尾羽133-2

T E L：054-363-1667

好きな自動車に関わることを仕事に

モチヅキオートボディーは、清水区庵原で钣金・塗装をメインに、車検、新車・中古車販売から自動車保険まで、車に関わる様々なことを請け負っています。望月渡氏は、創業者である父と同じ仕事がしたい、と大手自動車メーカーの専門学校へ進学し、整備士の免許を取ると、卒業後はディーラーの整備工場に就職。10年を経て家業に入り、両親と3人で再スタート。整備の他に営業や資金面のことも引き受け、2015年1月に同社の代表者となります。その間仕事も順調に増え、正規社員5名、パート3名の規模まで成長しました。氏は「好きなことを仕事にできているので楽しく、本当に良かった」と振り返ります。

風通しが良く雰囲気の良い職場が自慢

望月氏に自社の良い点を聞くと、社内の雰囲気を挙

げてくれました。仕事後に飲みに行ったり、同友会のイベントと一緒に参加したりと、従業員との関係の良さが、社内の良い雰囲気にも繋がっている、とのこと。また、女性従業員の存在も大きいそうです。



藤本 浩氏と望月 渡氏

一般的に自動車整備の仕事は男性のイメージですが、同社にはツナギを着て働く女性従業員が2名もいます。一般のお客様から「工場に女性がいると仕事も頼みやすい」と言ってもらったこともあるそうです。今後は、女性従業員も増えたことから、更衣室の設置やトイレの増設など、従業員のための設備投資も計画しています。

同友会で学んで更に良い会社へ

入会当初は知り合いもなく、勉強する内容も難しく、場違いな感じを受けていたそうです。しかし、会の活動に参加する中で知り合いも増え、今では支部役員の一員として活躍しています。「商売は儲ければ良いという位にしか考えていなかったが、同友会で学ぶ中で、社員のために何ができるかということも考えるようになった。今後は、仕事も増えているので、まず社員を増やしたい。そして、改築予定の工場に会議室を設け、社員と共に仕事について考える場を作りたい」と語ってくれました。

取材・記事：藤本 浩氏 (プリントバリュー㈱・静岡支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1056名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
内海典文	(有)丸宣エンタープライズ 不動産取引業 (不動産の売買・賃貸、損害保険代理店)	御殿場	加藤 正 弘
杉山弘人	(株)リスクコンサル 保険代理業 (損害保険販売、生命保険販売)	御殿場	杉山 正 英
阿部孝行	阿部リペア工房 内装業 (新築住宅及びアパートの内装補修、リフォーム等)	沼津	藤原 博 美
工藤久夫	(株)富士山ドリームビレッジ 障がい福祉サービス (就労移行支援、就労継続支援A型・B型、生活介護、放課後等デイサービス、日中一時支援)	富士	伏見 修
遠藤洋晃	(株)遠藤自動車 自動車販売整備業 (自動車整備・販売・保険)	富士宮	箕 威 頼
平岡浩	平岡建築板金 建築板金業 (内外装板金作業)	静岡	渋谷 朋 明
吉本靖	(株)セルリンク 特殊印刷 (のぼり、タペストリー、横断幕など生地製品全般の企画、製造、販売)	静岡	佐藤 眞 己
小寺敬二	司法書士法人みらいふ 司法書士 (相続・事業承継支援、遺言、成年後見、不動産登記、会社登記)	志太	大池 盛 一郎
三岡厚文	三岡厚文税理士事務所 税理士 (税理士業務)	志太	松葉 秀 介
松田和哉	(株)トーカイ 産業廃棄物中間処理、収集運搬 (産業廃棄物収集運搬及び中間処理、特別管理廃棄物収集運搬、一般廃棄物収集運搬及び処分 (木くず))	中遠	箕 威 頼

■名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名	所属支部	旧名義人
勝又恵一郎	岳南建設(株)	御殿場	丸山 和 浩

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第35回



増田 貴士氏

永田晃士さんから櫻を託されました、榛原支部の増田貴士と申します。牧之原市で製造業をしている3代目です。製造業と一口で言ってもとても幅広く、当社では、カーメーカーやパーツメーカーで使用する専用機、金型、ゲージ類の設計製作をしています。

私は2016年4月に入会しました。先代の会長は同友会歴が長く、私も新入社員の合同入社や支部の例会へオブザーブ参加したこともありましたが、なんとなくどんなことをやるのか知っていました。また、入会後に経営指針を創る会があることを知り、ぜひこの機会に経営者としての「核」を明確に持ちたいと思い参加させて頂きました。

半年のカリキュラムを終え、経営理念、経営方針を策定しましたが、自分が今までいかに未熟だったか思い知らされました。これからは創る会で導き出した事業定義「お客様にとって無くてはならないトータルサプライヤー」を目指して、会社はお客様、社長(私)は社員のためを思い努力をしていきたいと思っています。

次回は静岡支部の村松秀昭さんに櫻を渡したいと思っています。村松さんは高校の陸上部の後輩です。フェイスブックで同友会の先輩が村松さんと交流があることを知り、不思議に思っていました。経営指針を創る会の一期前に受講していたということを知りました。今後は同じ経営者として一緒に勉強していきましょう。村松さんよろしく願います。

増田 貴士氏 (増田工業(株)・榛原支部)



故 小川 敬一氏

(南仕出しおがわ)

富士支部の小川敬一氏が1月2日に60歳で逝去されました。

支部役員として長く活動にご尽力をいただきました。ご功績を偲び心よりご冥福をお祈り致します。



「朝まで討論会 in 御殿場」～ツロパンなくしてロマンが語れるのか!～

静岡同友会青年部が発足して最初の事業として、御殿場支部設営のもと一泊研修会が開催されました。その名も「朝まで討論会」決算書セミナー。今回の研修では過去3年の決算書から変動損益計算書を作成して経営分析を行った上で、経営者が2,000万円の報酬を得る(社員から1,000万円プレーヤーを出す)ためには中・長期的にはどれくらいの売り上げを立てなくてはならないか…そしてその売り上げを達成するには現状なにが不足しているのか…と、目標の出口を設定してから今何をすべきかを見出す研修を行いました。

「本音で熱く経営について語り合う青年部」、「夢を語るだけではなく、理論的にも熱く語れる経営者」を目指して行われた今回の研修会。会場の協力も相まって明け方まで熱い議論が行われ、まさに青年部らしい事業として歴史の1ページ目を埋めた研修会となりました。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)



同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。